

「石井さんは、どんなふうに星を生活に取り入れていますか？」  
 「やっぱり、占いでスケジュールなどを決めているのですか？」

私は星占いを書く仕事をしているので、しばしばこう聞かれます。そういうときは、期待に応えられなくて申し訳ないなと思いつつも、こう答えます。

「いえ、星占いは、自分の生活ではぜんぜん気にしていません」

星を読んで良い時間を選んで打合せの日を決めるとか、〆切を決めるとか、今年の星の動きに合った仕事を企画するとか、そういうことはひとつもやったことがないのです。

こんなことで、星占いの記事を書いていて、本当にいいのかしら、と思うこともあります。

ですが最近、ふと疑念が浮かびました。

私は本当に、星を気にしていないのかな、と。

あらためてそう考えたら、気がつきました。

星は、私の意識のなかに日々、ちゃんとあったのです。

ですがそれは、「今日はケガをしやすいから、気をつけよう」「今

日は人とぶつかりやすいから、打合せは別の日にしてもらおう」といったものではありませんでした。

そうではなく、もっと漠然とした、でも、もっと連続的で確かな感覚でした。

その「連続的で確かな感覚」を、本書でご紹介してみよう！と思いついたわけです。

この本の目指すところは、「生活を変えて幸せになる」というようなことではありません。そうではなく、みなさんがすでに日々、なんとなくやっていることに、ちょっとだけ新しい光を投げかける、というようなことを目指しています。

たとえば朝、なんとなくテレビの星占いが目に入ることはあるでしょうか。

私、石井ゆかりの星占いを、毎朝無料のLINEで読んでいる方もいらっしゃるでしょう。

美容院でファッショントレーナーを渡されて星占いのページを開いたり、カレンダーにスケジュールを書き込むとき、片隅に描かれた小さな満月や新月のマークが目に入ることもあるはずです。

さらに、日が暮れたあとの帰り道、ふと見上げた空に、大きな月を見つけてはっとしたこともあるのではないでしょうか。